

第13回子どもエコ俳句大賞表彰式

平成31年1月27日
此花会館 梅香殿



特選句

低学年の部	カナヘビを つかまえたこ 水きれい	丸子 麗仁 (2年生)	坪内 稔典 選
中学年の部	夏の空は 太陽のとうと 仲よしだ	杉本 漣史 (3年生)	〃
高学年の部	青田風 ぼくもいっしょに 波の中	大窪 凌世 (6年生)	〃

準特選

低学年の部	おいもさん ふかふかかぶり でっかいぞ	村井 美都 (1年生)	土井 俊信 選
中学年の部	ゲームやめ まどを開けたら 虫の声	木村 颯我 (4年生)	植山 俊宏 選
高学年の部	せみしぐれ 神社の庭で 体操だ	増山 日菜 (6年生)	田中 俊弥 選

1月27日(日)此花会館梅香殿で、住友生命福祉文化財団と共催の子どもエコ俳句大賞表彰式が行われました。この会も今年で第13回を迎え、これまでに寄せられた俳句は累計で64万句余りになるそうです。当日のスタッフは26人、受付担当、表彰式進行担当、賞状賞品担当、照明担当、プロジェクター画像担当など、9:30に集合し、準備、打ち合わせ、リハーサルと本番に向けて会場は緊張した空気に包まれます。スタッフは会場だけでなく、事務所にも待機しています。次々と入るインフルエンザのために欠席とか、大阪女子マラソンの通行規制のための渋滞で遅延するという電話に対応し、会場に連絡が入ってきます。

「…たくさんの応募句をシニア自然大学校のスタッフがまず整理します。作品ごとに管理番号を付けてパソコンに入力、一覧表にするのです。一覧表ができあがると、こんどは予選スタッフ(ベテランの俳人のみなさん)が数日かけて選考します。予選が終わった作品も一覧表にし、選者四人が話し合って優秀賞作品などを決めます。実はそれで終わりではなく、シニア自然大学校のスタッフは、入選句の点検作業に追われます。ネットなどで類想句がないかなどを丹念に調べるのです。その作業が終わると、いよいよ表彰式や作品集製作の準備に入ります。…」(子どもエコ俳句大賞入選句集坪内稔典先生総評より抜粋)。当日以外にもこれだけの縁の下を支えがあることにシニア自然大学校の底力を感じます。

12時に受付が開始され、胸飾りを付けた受賞者は、スタッフの引率で親とは離れ受賞者席に順番に着席し、登壇を待つこととなります。前説で、名前を呼ばれたら大きな声で返事をするを指導されます。声を出すためには一度大きく息を吸います。吸うためには思い切り息を吐きましょうと、深呼吸を何度かしているうちに緊張もほぐれるのか、大きな声が出るようになり本番を迎え、特選・準特選・優秀・優良、百六句が表彰され、2時間余りの子供にとっては長く感じられたであろう会も、無事終わることが出来ました。この模様は、読売新聞(大阪版・阪神版・滋賀版)、神戸新聞に掲載されました。



(広報 金子)